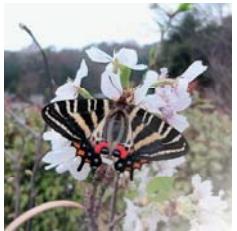




ひょうごの森林・林業



Forests, Forestry of Hyogo



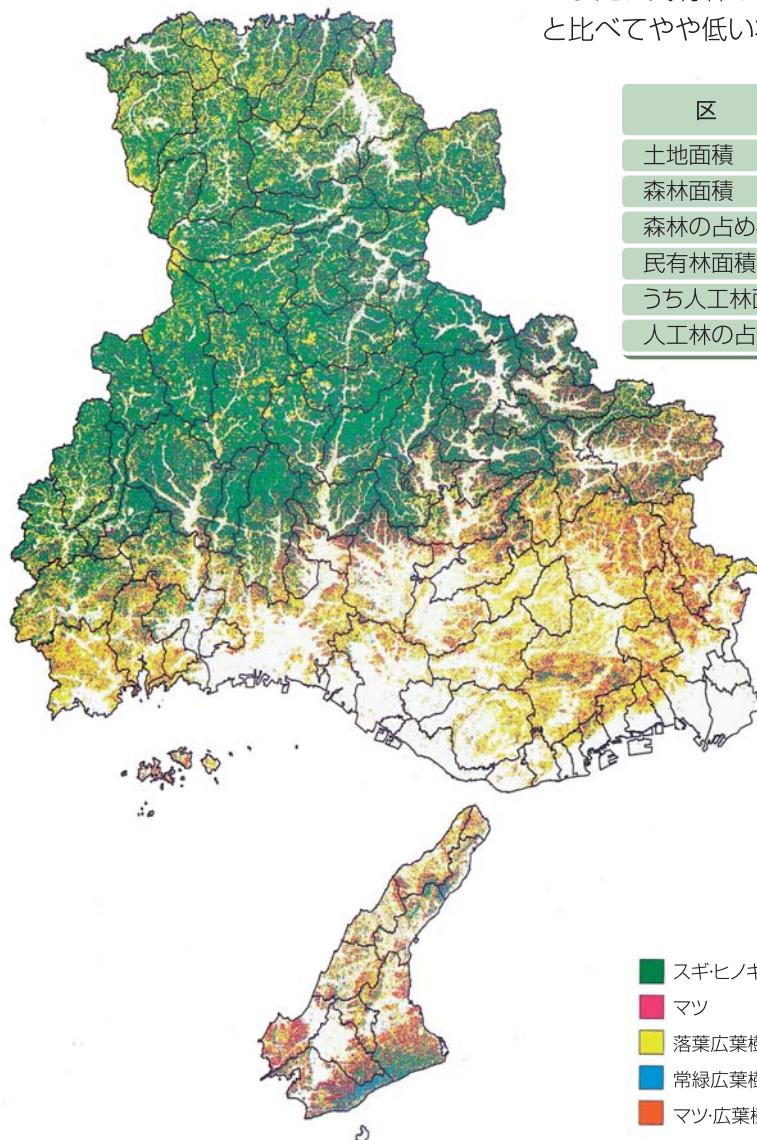
目 次

森林の現況	2
森林の果たす役割	3
基本方向・施策項目	4
新たな需要開拓による県産木材の利用促進	
県産木材の利用促進と利用意識の醸成	6
新たな県産木材需要や用途の開拓	7
幅広い需要に対応できる木材の安定供給体制の確立	8
林業の収益性の向上	
低コストかつ安定的な原木生産体制の整備	10
林業事業体等担い手の育成強化	13
皆伐・再造林の低コストモデルの構築	15
森林の多面的機能の維持・向上	
新ひょうごの森づくりの推進	16
災害に強い森づくりの推進	20
山地防災・土砂災害対策の推進	23
森林の保全	25
森林病害虫の防除	26
野生動物の管理や被害対策の推進	
野生動物の保護管理	27
林業関係団体	30



森林の現況

人工衛星(ランドサット)データを用いた 兵庫県の森林植生分布図



兵庫県は、県土面積の67%にあたる56万1千haを森林が占め、全国第14位の広さです。森林の占める割合は全国平均とほぼ同じになっています。

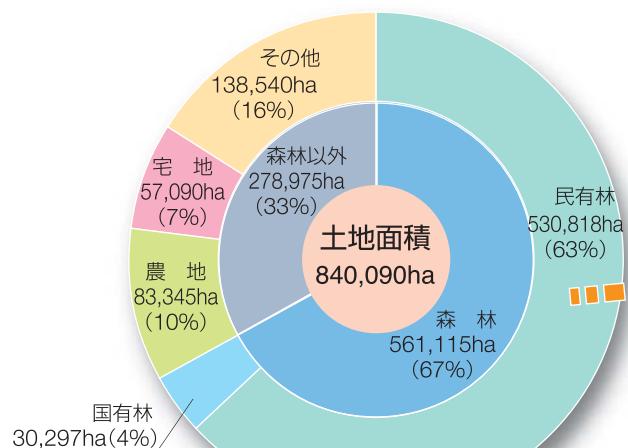
また、民有林のうち人工林の占める割合は全国平均と比べてやや低い状況です。

区分	全 国 (千ha)	兵 庫 県 (千ha)
土地面積	37,972	840
森林面積	25,081	561
森林の占める割合	66%	67%
民有林面積	17,407	531
うち人工林面積	7,962	221
人工林の占める割合	46%	42%

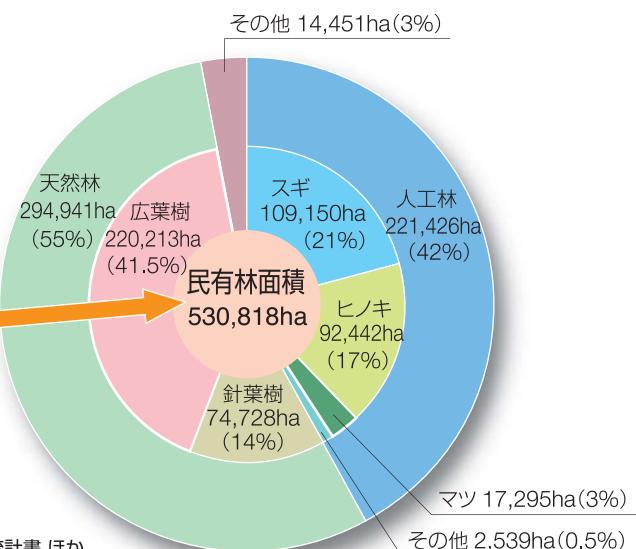
(注)ha=10,000m²

出典：森林・林業統計要覧(2016)
平成28年度兵庫県林業統計書

兵庫県の土地利用状況



民有林の樹種別面積



出典:平成28年度兵庫県林業統計書 ほか

森林の果たす役割

～森林の持ついろいろな働き～



公益的機能評価額

兵庫県の森林の持つ公益的機能評価額(年間)
下段()書きは全国の評価額

**大気保全機能
1,486億円
(5兆1,400億円)**

森林は、光合成により二酸化炭素を吸収し、酸素を供給しています。
また、その過程で炭素を長期間固定し、地球温暖化防止に重要な役割を果たしています。



**水源かん養機能
3,787億円
(27兆1,200億円)**

森林は、降雨を吸収・貯留し、徐々に流出させることにより、洪水や渇水を緩和しています。
また、水を浄化するとともに、豊かな水源地を保全しています。



**土砂流出・崩壊防止機能
6,948億円
(36兆7,000億円)**

森林は、健全な成長をすることで、根系などにより山崩れが発生することを防止しています。
また、下層植生や落葉落枝で、表土が流出したり、浸食されたりすることを防止しています。



**保健休養機能
996億円
(2兆2,500億円)**

森林には、心身をリラックスさせる効果が確認されており、キャンプやハイキングなどのレクリエーションや森林セラピー(森林療法)などの場として利用されています。



**野生鳥獣保護機能
849億円
(3兆7,800億円)**

森林は、餌の供給や隠れ場所など、野生鳥獣(シカ、クマ、野鳥等)の生息場所となっています。
また、さまざまな動植物を育み、生物の多様性を保全する役割を果たしています。



**兵庫県の森林の持つ公益的機能評価額は
年間 1兆4,066億円です。
(全国74兆9,900億円※) ※林野庁試算**

○林業産出額 平成27年:37億8千万円(全国 4,362億7千万円)
出典:農林水産統計(H27)

“ひょうごの森林・林業”のめざす姿

「ひょうご農林水産ビジョン2025」を策定

兵庫県では、平成28年3月に「ひょうご農林水産ビジョン2025」を策定しました。

〈めざす姿〉

2025年 木材の有効利用と森林の保全・再生

□建築用材の新たな需要や用途が開拓され、建築用から燃料用まで幅広い分野で木材が有効利用されています。

□優秀な人材が確保・育成され、長期的計画に基づいた収益性の高い経営が行われるとともに、計画的な皆伐再造林等により、木材が安定供給されています。

□人工林等での持続的な林業経営により木材等生産機能が発揮されるとともに、県、市町、県民等による保全管理が適正に行われ、森林の有する多面的機能が維持・向上しています。



2025年 活力ある農村(むら)づくりの推進

□野生動物による農林業被害が減少し、安定的な農業経営や住民の安全・安心な暮らしを確保されています。

「ひょうご農林水産ビジョン」は「21世紀兵庫長期ビジョン」の農林水産業・農山漁村に関する分野別ビジョンとして、本県の農林水産業・農山漁村に関する各種施策の基本となる計画です。

新たな需要開拓による県

川上から川中、川下までが一体となすところなく木材を有効利用するとともに開拓することにより、県産木材の利用

県産木材の利用促進と利用意識の醸成

⇒P.6



新たな県産需要や用途の

⇒P.7



活力ある農村(むら)

野生動物の管理や

地域の実状に応じた野生動物の個体を科学的・計画的に行うこと等により、宮や住民の安全。安心な暮らしを確保

野生動物の個体数管理・被害管理

⇒P.27



野生動物生息地管

⇒P.28



基本方向・施策項目

木材の有効利用と森林の保全・再生

産木材の利用促進

って建築用から燃料用まで、余るに、新たな木材需要や用途を促進を図ります。

木材開拓

幅広い需要に対応できる木材の安定供給体制の確立

⇒P.8~9



づくりの推進

被害対策の推進

数管理、被害管理、生息地管理農村における安定的な農林業経します。

の理

シカ肉等の有効活用



林業の収益性向上

低コスト原木供給団地や林内路網の整備等に加え、森林組合等林業事業体が間伐等を中心とする森林整備を計画的かつ一体的に行う施業集約化を進めるとともに、皆伐・再造林の収支モデルを構築して、林業の収益性の向上を図り、資源循環型林業の実現につなげます。

低コストかつ安定的な原木生産体制の整備

⇒P.10~12



林業事業体等担い手の育成強化

⇒P.13~14



皆伐・再造林の低コストモデルの構築

⇒P.15



森林の多面的機能の維持・向上

森林を県民共通の財産と位置づけ、公的な管理や社会全体で森林を支える仕組みのもと、森林が有する多面的機能の維持向上を図ります。

新ひょうごの森づくりの推進

⇒P.16~19



災害に強い森づくりの推進

⇒P.20~22



山地防災・土砂災害対策の推進

⇒P.23~24



森林の適正な保全と管理

⇒P.25~26



水源かん養保安林

ナラ枯れ被害

新たな需要開拓による県産木材の利用促進

県産木材の利用促進と利用意識の醸成

公共施設等の木造・木質化の推進

県や市町が建築・改修する公共施設等について、建築基準法等の規制などにより木材利用が困難な場合を除き、木造化や内装等の木質化をすすめています。

また、県庁内に「公共施設木材利用推進会議（会長：副知事）」を設置し、調整しながら、毎年の取組方針や目標を決定し全庁的な取組をすすめています。



県立西宮こども家庭センター（西宮市）

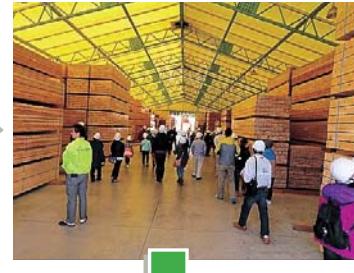


道の駅丹波おばあちゃんの里（丹波市）

県産木材を使用した住宅建設の促進

山から住宅づくりに至る過程に関連する木材業者や工務店等と連携し、県産木材利用木造住宅特別融資制度の活用等により“県産木材を50%以上利用した高品質で価格透明性の高い木造住宅”の建設を進めています。

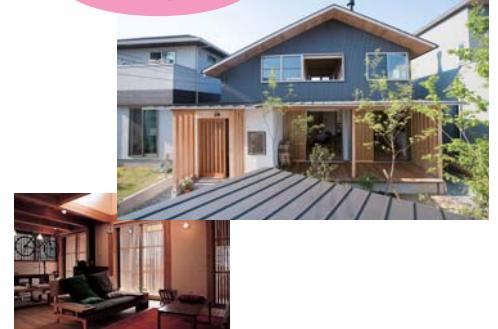
そのため、家づくりグループと連携して、産地見学会や家づくりセミナーを実施しています。



産地見学会



家づくりセミナー



「身近な地域材を使って家をたてたいのだけれど、どこにきけば良いの？どんなメリットがあるの？」
そんなご相談にお応えするための情報サイトが開設されています。

■ひょうご木の匠の会

<http://hyogo-kinotakumi.com/>

■地域窓口「兵庫県木材業協同組合連合会」

<http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/>

暮らしに身近な木材製品を活用した普及啓発

県産木材を活用した住宅内装材や木製学習机、玩具など、暮らしの中での多用な木材利用法を提案しています。

木とふれあうイベント「ひょうご木材フェア」等での県産木材製品の展示や木製用品カタログの配布、優れた木材利用事例を選定した事例集を作成し、インターネット等による情報を提供しています。

また、県産木材を利用する意識醸成を図るために「木育」を推進するとともに、幼児向けの木育キャラバン活動を通じ、森林・林業が有するCO₂の削減や水源涵養機能などの多面的機能に関する様々な情報の発信を行っています。



木造住宅模型の組立体験
(ひょうご木材フェア：神戸市)

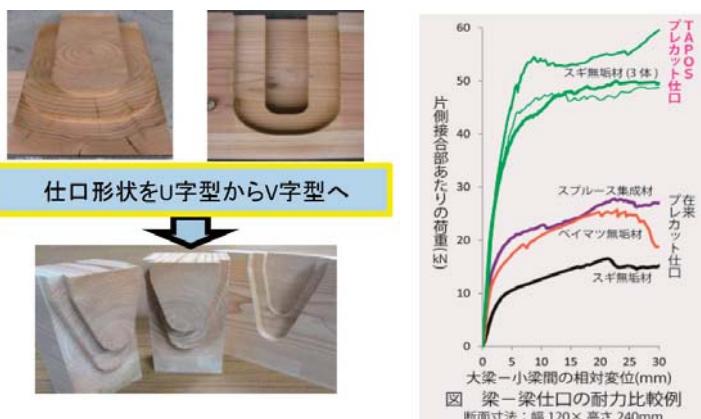


木育キャラバン活動（三田市）

新たな県産木材需要や用途の開拓

県産スギ材の需要拡大

兵庫県立農林水産技術総合センターでは、強度の高い梁仕口「Tajima TAPOS®」を開発し、これまで接合強度が弱い等のイメージから敬遠されていたスギを、木造軸組工法の梁桁等の横架材に活用することを容易にしました。



新たな木材用途の開拓・普及

CLTとはCross Laminated Timberの略称で、ひき板（ラミナ）を並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料です。

近年、海外では、欧州を中心に利用が急増しており、従来鉄筋コンクリート造での建築が多かった中高層建築物等にCLTを用いることで、新たな木材需要につながると期待されています。

このCLTを広く普及するため、「CLT活用による兵庫県産木材の利用拡大研究会」の研究成果を踏まえた実物大展示モデルを作成し、CLT建築に向けた技術セミナーや施工業者向けの研修会、PR冊子等による普及啓発を実施しています。

各種再構成材料の原料と繊維配向	
原料	繊維配向
ひき板	平行 集成材 厚板を平行に重ねた、線材
単板	直交 CLT 厚板を直交して重ねた、面材
	LVL 薄板を平行に重ねた、線材
	合板 薄板を直交して重ねた、面材

独)森林総合研究所 宮武チーム長、国土交通省国土技術政策総合研究所 中川真美主任研究官作成



未利用木材等の有効利用

林地残材等の未利用木材を木質バイオマス資源と捉え、薪やペレット、チップ等を利用するストーブやボイラ、木質バイオマス発電施設等への有効活用を図り、未利用木材の新たな価値の創出を図っています。

朝来市生野工業団地では、関西電力㈱、兵庫県森林組合連合会、(公社)兵庫みどり公社、兵庫県、朝来市の5者で協定を結び、未利用木材の搬出から燃料チップの製造及び発電までを一連の事業として官民協働で推進し全ての関係者が利益を共有する全国初の取組みである「兵庫モデル」の構築が開始しました。



宍粟市におけるペレットストーブ利用



多可町における木質チップボイラー利用



朝来市における木質バイオマス事業



木質バイオマス発電施設ストックヤード
(株)日本海水 (赤穂市)

幅広い需要に対応できる木材の安定供給体制の確立

建築用から燃料用まで、市場から求められる品質に応じた木材の低コストかつ安定的な供給を推進します。

県産木材の供給体制の確立

(協)兵庫木材センターを核とした新たな県産木材供給体制の強化

(協)兵庫木材センターを核とした効率的な加工・流通体制により、品質・価格・供給力で外材等に対して競争力を備えた県産木材製品の供給体制のさらなる強化を図ります。

同センターの製品は、品質がハウスメーカー・商社等から高い評価を受けていることに加え、近年バイオマス用燃料の生産も始めており、販売実績が順調に伸びています。

【協同組合兵庫木材センターの概要】

- ・組合員 宍粟市内の素材生産業者、製材所等を主とする25の企業からなる。
- ・所在地 宍粟市一宮町安積地内
- ・主な施設 原木集積場、選別機、皮むき機
製材施設、木屑焚きボイラー、木材乾燥機、加工施設、製品倉庫、事務所棟
- ・事業規模 原木取扱量12万6千m³
製品生産量6万7千m³



兵庫木材センター（全景）



主力の製材品



近年生産を開始した燃料用木材

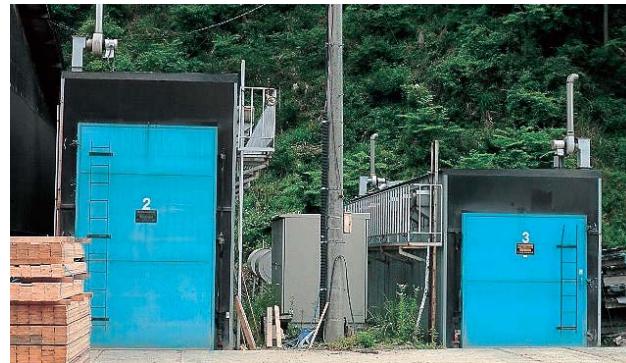
既存流通加工体制の強化

多品目少量生産という中小規模製材工場の特徴を生かし、多様なニーズに応じた木造住宅部材や内装材等の供給体制を強化するために、JAS取得や乾燥機導入を推進し、品質管理の高度化とコスト縮減を図ります。

新規住宅着工戸数が落ち込む中、県産木材のさらなる利用拡大にむけた新たな設備投資への補助金や低利融資制度による運転資金の確保などを通じて、既存流通加工体制を支援しています。



木材市場の土場・選別機



製材所の木材乾燥機

木質バイオマスの利活用促進

木質バイオマス発電施設等へ未利用木材を安定的に供給するため、林業事業体に対する効率的な収集・運搬システムの普及や山土場の整備支援、加工・流通事業者及び需要者に対するストックヤード整備の支援により、輸送コストの低減などを促進します。



山土場の整備



木質バイオマス発電所におけるストックヤード

自伐林家等の木材収集・運搬システムの構築

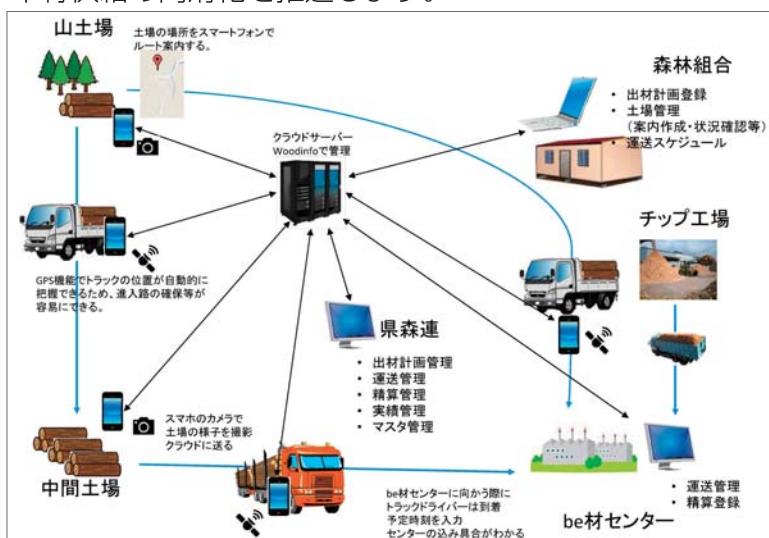
小規模森林所有者や森林ボランティアなどの多様な担い手の集積基地を整備するなど、未利用木材の収集・運搬システムの構築を推進します。



木の駅プロジェクト（丹波市）

生産から消費までの情報共有化の推進

林業事業体の原木生産情報と製材所等の加工・流通及び工務店等の需要情報を集約化し、関係者間での情報共有を図る事によりサプライチェーンを構築し、市場から求められる品質等に対応した木材供給の円滑化を推進します。



兵庫県森連be材SCMシステム
(県森連が、山土場管理や出材計画・運送管理等をリアルタイムで一元管理)

林業の収益性の向上

低コストかつ安定的な原木生産体制の整備

低成本原木供給団地の拡大

建築・土木や紙・パルプなどに使用する材料用の木材需要や、木質バイオマス発電所の稼働等による燃料用の木材需要に対して、原木を安定的に供給し、効率的で低成本な原木生産システムを確立するために、集約化により伐採・搬出が可能な森林を50ha程度にとりまとめて団地化した「低成本原木供給団地」を設置し、団地内に集中的な路網整備を進め、高性能林業機械による効率的な木材生産を可能とする集約化施設を推進しています。これにより、森林所有者に利益を還元できる循環型林業の確立を目指して取り組んでいます。

路網整備の推進

低成本原木供給団地と木材市場、(協)兵庫木材センター等を結ぶアクセス道路となる林道と、効率的で低成本な木材搬出等を可能にする作業道の整備を計画的に推進します。

また、林道は山間部の交通の確保、山村地域の振興や都市と山村を結ぶ交流に利用されるなど大切な役割も担っています。

壊れにくい作業道の推進

作業道は、数年ごとに行う間伐、最終的に収穫を行う主伐、その後の再植栽、保育と多岐にわたる利用が見込まれます。

そのため、長期的な利用を想定した壊れにくく耐久性のある作業道を開設することにより、維持管理コスト等を低減させ、長期においても経営の低成本化を図ります。

新ひょうご林内路網1,000km整備プラン(イメージ)

低成本作業システムを実践するため、高性能林業機械が効率的に稼動できるよう、低成本原木供給団地を中心とした1ha当たり100mの高密度な作業道整備を進め、アクセス道路となる林道と合わせ、平成26年度から平成33年度までの8年間に新たに林内路網を1,000km整備します。



フォワーダで運搬



木材市場、兵庫木材センター等



大型トラックで運搬(林道)



路網拠点で大型トラックへ積み替え

幹線林道(利用区域500ha以上の林道)の開設と機能向上の推進

林内路網の骨格となる林道を整備し、また、開設した林道を適正に維持管理することで、大型トラックによる木材輸送効率の向上と森林整備従事者の労働環境の改善を目指します。但馬・播磨地域の主要な山系を縦断する森林基幹道10路線、森林管理道12路線での整備を進めています。



木材搬出状況
(千町・段ヶ峰線)

平成28年に全線開通した栗鹿山線(地域の幹線林道で利用区域615ha)

路網拠点の整備推進

既に開通した幹線林道沿線で作業道接続や森林の団地化を一層促進するため、伐採可能なスギ・ヒノキの森林資源が豊富で、森林作業道が直接接続することが困難な箇所等を対象に、高性能林業機械を使った作業システムに対応した「支線」や「作業用地」の整備を推進します。



高い法面が連続していた場所を改良して支線と作業用地を整備(笠形線)

市町等が管理する林道の適正な維持管理

木質バイオマス発電施設の稼動に伴う木材需要の大幅な増加が見込まれる中、大型トラックや高性能林業機械による作業効率を確保し、木材生産基盤である林道の利活用を図ることは大変重要です。県下の林道は約1,200路線（総延長約1,800km）に及び林道施設災害への迅速な対応が図られるよう、林道管理者である市町職員等を対象に林道施設災害復旧研修を定期的に開催しています。



災害復旧研修



豪雨による法面崩壊



災害復旧による通行確保

林業の収益性の向上

高性能林業機械の導入促進

原木の生産性の向上のため、立木の伐倒、木寄せ、枝払い、玉切り(造材)、運搬(集材)という生産工程に応じて開発されている高性能林業機械等の活用を進めています。

プロセッサやグラップルにより路網両脇の20m程度の範囲で木寄せを行う車両系作業システムと、スイングヤーダ等により路網から約100m程度までを集材する架線系作業システムなどがあります。高い生産性を実現していくためには、傾斜や路網密度によって、高性能林業機械を適切に配置した作業システムが重要となります。



現場で活躍する主な高性能林業機械等



**プロセッサ
【木寄せ・造材】**
集材された木材の枝払い・測尺・玉切り(造材)を連続して行う自走式機械



**ロングリーチグラップル
【木寄せ】**
2段伸縮式アームによりグラップルに比べて木寄せ範囲を拡大し、生産性を向上



**スイングヤーダ
【集材】**
アームをタワーとして使用し、主索を用いない簡易な架線による集材機

林業事業体等担い手の育成強化

林業事業体の経営者、森林施業プランナー、現場技能者の能力向上を図り、収益性の高い林業経営の実現を目指しています。また、県立森林大学校を整備し、現場の即戦力となる新規就業者の確保・育成を進めています。

林業事業体の育成強化

林業事業体の収益性の向上

経営者の企画立案能力の向上、森林施業プランナーの森林経営計画立案等の実践力の向上、現場技能者の伐採・路網開設等の技術力の向上により、林業事業体が収益性の高い林業経営を行い、森林所有者の収入の増大を図っています。



木材破碎機によるチップ加工



森林施業プランナー研修

新たな参入事業体の育成

木質バイオマス発電施設向けの未利用材の需要増大が見込まれる中、伐採やチップ加工など幅広い事業展開が期待されるため、施設や機械導入の初期投資の負担軽減を図り、林業へ新たに参入する事業体の育成や収益性の向上を図っています。

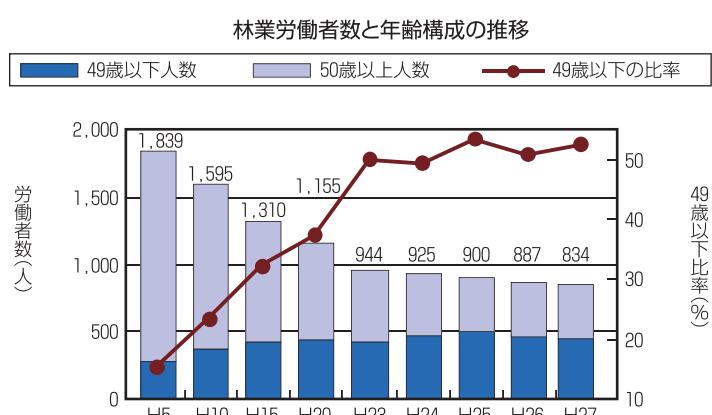
林業労働者の確保・育成

新規就業者の確保

県内の林業労働者数は、漸次減少しており、林業労働力確保支援センター等と連携して、若者等を対象にした就業向けのガイダンス、就業前研修等の実施により、新規就業者の確保を進めています。



作業道作設研修



現場技能者等の育成

労働の安全性に関する知識やコストを勘案した施業技術を習得した現場技能者を育成するとともに、森林施業プランナーや森林総合監理士（フォレスター）など、技術者の習熟レベルに応じた人材育成を進めています。

林業の収益性の向上

■ 兵庫県立森林大学校の設置

森林の有する多面的機能の増進や地域の活性化に寄与するため、次代の林業を担う人材の養成や森林に関わる人材を育成する機関として、平成29年4月に兵庫県立森林大学校を開校しました。

【概要】

- 1 設置場所**
- 宍粟市一宮町安積(宍粟市一宮市民局庁舎内)
 - 平成30年4月以降は同町能倉(宍粟市染河内小学校の閉校跡)に移転

2 開設する学科

(1) 専攻科

入学資格	高等学校卒業又は同等程度、40歳以下		
修業年限	2年	学年定員	20名

森林整備等の現場作業の技能に習熟するとともに、地域の森林を適切に経営管理できる、高度な人材を養成します。

- 先進林業事業体等における学外就業体験等を通じた実践教育の実施
- 4年制大学への3年次編入学の受験資格の取得が可能な専修学校
- より高度な知識・技術を習得する高度化コース（研修科）も選択可能

(2) 研修科（短期研修）

林業従事者や幅広く森林に関わる人材を育成します。

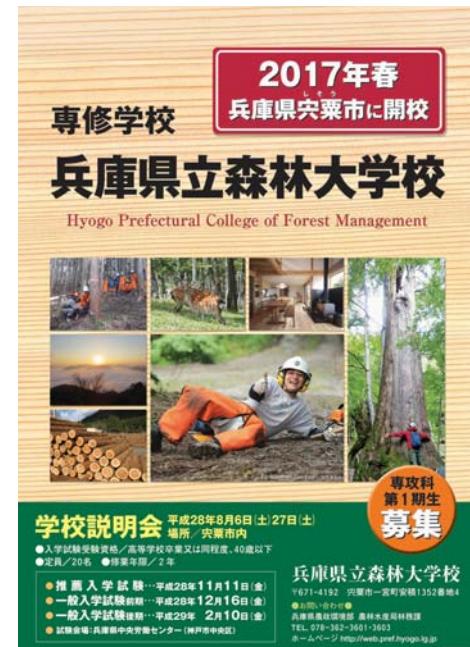
- 林業機械高度化コース、森林経営高度化コース、木材利用高度化コース等、林業・木材産業の従事者を対象とした技術や経営の高度化への対応
- 森林セラピーや狩猟・ジビエ活用等、森林環境教育や野生動物管理に関する知識・技術の習得など、森林に関わる幅広い人材の育成



県立森林大学校校舎（平成29年度）



県立森林大学校校舎（平成30年度～）



皆伐・再造林の低コストモデルの構築

人工林の林齢構成の平準化や将来の木材需要への持続的な対応に向けて、皆伐・再造林の低コストモデルの構築を図り、資源循環型林業の実現につなげます。

皆伐・再造林の低コストモデルの構築を目指して

平成28年度花粉発生源対策促進事業（農山漁村地域整備交付金）を活用し、県下3箇所（約3ha）で皆伐と少花粉スギ（花粉量が通常の1%以下）への植替えを実施しました。

事業地では、皆伐に引き続き、少花粉スギのコンテナ苗を低密度で植栽（2,000本/ha）する皆伐・再造林低コスト施業の試行的取り組みを実施しています。

皆伐後の確実な再造林を推進するため、今後も一貫施業の施業効果等の検証に取り組んでいきます。

少花粉スギコンテナ苗



コンテナ苗による植栽
(2,000本/ha)



コンテナ苗（各種植付け器）



フォワーダ（伐採木運搬車）での苗木運搬



再造林後の状況

- 皆伐・再造林の一貫施業とは・・・伐採に使用した林業機械を使って、機械による地ごしらえ・苗木運搬を行い伐採後すぐ苗木を植え付けることにより効率を上げる新技術
- コンテナ苗とは・・・コンテナ苗とは、硬質樹脂製の多孔容器（マルチキャビティーコンテナ）で育成された「根鉢付き苗」のこと。従来の裸苗と比べ、植栽時期を選ばず、植え付け作業が容易で早い

※兵庫県内で植栽するコンテナ苗は通常の品種に比べ花粉量が1%以下のスギ少花粉苗を使用しています。

森林の多面的機能の維持・向上

新ひょうごの森づくりの推進

“森林は県民共通の財産である”との理解のもと、「公的関与による森林管理の徹底」・「多様な担い手による森づくり活動の推進」を基本方針に、森林の持つ多面的機能の高度発揮を図ることを目指して、平成24年度から10ヶ年計画で「新ひょうごの森づくり」（第2期対策）を進めています。

新ひょうごの森づくりの具体的な支援策

区分		内容
公的関与による森林管理の徹底	森林管理100%作戦	国の造林事業等による間伐・作業道開設にかかる補助残額を県・市町が連携して公的負担を実施
	里山林の再生	集落周辺の里山林において、地域住民等が自ら行う森林整備活動に対して、資機材費等を支援
多様な担い手による森づくり活動の推進	森林ボランティアの養成	森林ボランティア団体の次代のリーダーを養成する講座の開催
	「企業の森づくり」の推進	企業が社会貢献活動の一環として行う、森林保全活動の活動計画の策定支援、受入活動地の情報提供等の実施

公的関与による森林管理の徹底

森林管理100%作戦

森林の公益的機能の高度発揮のため、県・市町が連携した公的関与の充実により、60年生以下のスギ・ヒノキ人工林の間伐及び作業道開設を支援し、間伐実施率100%を目指します。

手入れ不足の森林

間伐が遅れて木々の成長が悪く、林内が暗いため下草が生えずに土がむき出しになり、土砂の流出等が発生します。



間伐した森林

適正な森林管理により、木々が大きく成長し、下草が生えるため、森林の持つ水源涵養機能や土砂流出防止機能などの公益的機能が十分に発揮されます。



里山林の再生

集落周辺の広葉樹林等における地域住民や森林ボランティアが自ら行う住民参画型の森林整備活動に対して、住民参画型里山林再生事業により、資材・機材の購入費等への支援を実施しています。また、平成29年度からは、森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用し、森林整備活動に加え木材の搬出利用や森林環境教育、安全衛生・林業技術講習を行う活動にも支援しています。

住民参画型里山林再生事業



チェーンソーを購入し、広葉樹林を整備



チッパーを使って、荒れた竹林を整備



【教育研修活動】活動組織による会員を対象とした森林環境教育の実施



【教育研修活動】活動組織による会員を対象とした林業技術講習会（かかり木処理）の開催

広葉樹林化の促進

収益性が低く伐採の進まない高齢人工林（90年生以下）について、小面積の伐採を行い、広葉樹の導入等により将来的に広葉樹林へ誘導し、山地災害防止や野生動物の生息環境保全など森林の公益的機能を高度に発揮する多様な森林を整備します。



森林の多面的機能の維持・向上

多様な担い手による森づくり活動の推進

森林ボランティアの育成

県民が様々な形で森林に親しみ、森づくり活動を通じて森林の大切さや保全の必要性を理解してもらうため、森林ボランティア講座の開催や、森林ボランティア団体の活動支援などを行っています。

森林ボランティア講座



地域の森づくり活動の担い手として、新しいボランティアの育成と各団体の次代のリーダーを養成する「森林ボランティア・リーダー養成講座」を開催しています。

兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

会員相互の活動情報の共有、ひょうご森の日など、県民が気軽に参加できる森づくり活動の情報提供などを行っています。

・参加団体数：57団体（平成29年1月末現在）



「企業の森づくり」の推進



企業・団体が社会貢献活動の一環として森林所有者に代わって行う森林の保全・整備活動をさらに推進するため、活動計画の策定や受入活動地の斡旋などを支援しています。



県民総参加の森づくりに向けた普及啓発

森への理解と関心を高める普及啓発

森林や自然環境に対する県民の理解と関心を高め健全な森林を育てていくため、森林環境教育やイベントの開催を進めています。

森のインストラクター



森林体験学習の指導ができる「森のインストラクター」を認定しています。

緑の少年団



森林での学習や緑化活動を通じて、自然や人を愛せる豊かな人づくりを目的に緑の少年団の育成・活動支援を行っています。

ひょうご森のまつり



県民総参加による森づくりの啓発とともに、かけがえのない緑を次世代に引き継ぐため毎年全県イベントとして開催しています。

県立ふるさとの森公園



県民の参画と協働により、森林の保全と創造を進めるとともに、人と自然が共生する豊かな森づくりを推進するため、県下6箇所でふるさとの森公園を運営しています。

県立三木山森林公園



豊かな緑の中で勤労者をはじめ広く県民の文化活動及びレクリエーション活動の促進を図ると共に、人と森林とのふれあいを深めるため、三木山森林公園を運営しています。

ひょうご森の日

10月最終日曜日の「ひょうご森の日」を中心とする10月～11月に、森に親しむイベントを森林ボランティア団体と連携して開催しています。



樹木医の活動



地域のシンボルとして貴重な巨樹・巨木の保存活動に樹木医が活躍しています。

森林の多面的機能の維持・向上

災害に強い森づくり

～豊かな「緑」は県民共通の財産、みんなで支え、次の世代に引き継ぎます～

緊急防災林整備

スギ・ヒノキ人工林が大半を占める危険渓流域の森林を対象に、斜面の防災機能の強化を図るため、間伐木を利用した土留工（どどめこう）を設置とともに、渓流沿いの人工林の機能強化を図る災害緩衝林整備等を実施し、流木や土石流による被害を軽減します。



間伐木土留工を設置



整備前



災害緩衝林整備等を実施

整備後

効果

平成26年8月豪雨災害では、災害緩衝林（倒木・流木の除去と間伐）が流木・土石流の発生を防止しました。

間伐木を利用した土留工整備地の年間土砂流出量は、未整備地に比べ約1/8と少なく、ha当りの流出量は「健全な森林の年間土砂流出量1m³/ha以下」に抑制しました。



土砂流出を抑止した間伐木土留工



土砂等を抑止した簡易流木止め施設

里山防災林整備

集落裏山にある里山林において、危険木の伐採を含む森林整備や、簡易防災施設を設置とともに、地域住民による防災マップの作成等の防災活動への支援を行うことにより、山地災害防止機能の向上や減災活動の活性化を図ります。



危険木の伐採



森林整備と簡易防災施設の設置



地域住民との防災マップ作成

効果

簡易防災施設（丸太柵工等）の整備により、年間土砂流出量は未整備地に比べ約1/3と少なく、ha当りの流出量は「健全な森林の年間土砂流出量1m³/ha以下」に抑制しました。

人家裏山の危険木伐採により、住民の6割以上が、倒木に対して「不安が解消した」と評価しました。

針葉樹林と広葉樹林の混交整備

大面積に広がる手入れ不足の高齢人工林の部分伐採を促進し、広葉樹を植栽することにより、パッチワーク状に樹種、林齡が異なり、風水害等に強い多様な混交林への誘導を図ります。



植栽 4 年目(クリ等の広葉樹の植栽)



植栽 6 年目

効果

風倒木被害防止及び洪水防止機能が期待できる森林に更新中です。

植栽木の成長と下層植生の回復とともに年間土砂流出量が減少し、ha当りの流出量は概ね「健全な森の年間土砂流出量 1 m³/ha以下」に抑制しました。

野生動物共生林整備

野生動物による農作物被害が深刻な地域において、人家等に隣接した森林の裾野に人と野生動物の棲み分けゾーン（バッファーゾーン）を設置するとともに、野生動物の生息地となる森林やシカ食害等により公益的機能が低下した森林の整備を実施します。



バッファーゾーンを設置した集落裏山の里山林



広葉樹林整備

効果

バッファーゾーン整備と集落防護柵の一体整備により、被害を受けた農地が約 8 割減少しました。

シカ食害で衰退した下層植生が、植生保護柵の設置により回復つつあります。

住民参画型森林整備

地域住民やボランティア等による自発的な「災害に強い森づくり」整備活動に対し、資機材費等を支援します。

効果

枯れ松や危険木伐採等により、集落の安全を確保しました。

集落柵周辺の見通し確保、潜み場除去等により農作物被害が減少しました。



住民等による「災害に強い森づくり」整備活動状況

都市山防災林整備

平成26年8月豪雨では、六甲山系において、風化花崗岩や松枯れ跡地の広葉樹林の急斜面で表層崩壊が多発したため、人命・下流人家等に甚大な被害を及ぼす危険性が高い流域の森林を対象に防災機能の強化を図ります。

成長の劣る広葉樹が過密状態で
林内が暗く下層植生が消失

過密林の間伐後に、土留工を設置

森林の多面的機能の維持・向上

整備効果の検証

学識者による「事業検証委員会」において、土砂流出量や根系調査データ等を専門的な視点から分析を進め、土砂災害防止機能の向上等の検証作業を実施しました。



土砂流出量の比較調査



根系の抵抗力調査



検証委員会開催状況

数量的評価

●森林の公益的機能の向上効果を数値化

土砂災害防止機能：年間の土砂流出防止量 約6,989m³
(10トンダンプトラック約1,100台分に相当)

洪水防護機能：年間の貯留量増加分 約2,232,000m³
(加古大池の貯水量(1,300,000m³)の約1.7倍に相当)

二酸化炭素吸収機能：年間の二酸化炭素吸収量 約31,736トン
(1年間に約6,000世帯から排出される二酸化炭素に相当)

経済的評価（費用対効果分析）

●森林の公益的機能の向上効果を貨幣価値換算

投資額約88億円に対して約471億円の効果【約5.4倍】

- (内訳)
 - ・山地保全便益額：約277億円
 - ・水源かん養便益額：約145億円
 - ・環境保全便益額：約11億円
 - ・生産被害防止便益額：約30億円
 - ・その他便益：約8億円

詳細は兵庫県ホームページ参照

https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk21/af15_000000004.html



現地見学会の風景



災害に強い森づくりフェアの模様

普及啓発活動

災害に強い森づくりの実施状況や効果を、広く県民の皆さんにご理解をいただくため、現地見学会の開催や各種イベントを活用し、情報発信に努めています。

県民緑税

県民の共通の財産である「緑」の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして平成18年度から「県民緑税」（県民税均等割の超過課税）を導入し、豊かな「緑」を次の世代に引き継いでいくため、「緑」の保全・再生に関する事業を早期・計画的に推進していきます。

超過税率(年額)：個人・・・800円 法人・・・資本等の額により 2,000円～80,000円

税収規模：年間 約24億円

山地防災・土砂災害対策の推進

集中豪雨や地震等の自然災害による被害を未然に防止するため、山地災害危険地区において、山腹崩壊地の復旧や治山ダム等の防災対策をはじめ、森林の水源涵養機能、災害防止機能が低下した保安林において森林整備を実施し、災害から県民の生命・財産を保全します。

また、山地災害発生に備え、県民の的確な避難行動や防災知識の向上など防災力を高めるため、山地災害危険地区情報の発信や防災教室の開催など、地域住民の参画と協働による減災対策を進めます。

山地防災・土砂災害対策 5箇年計画等 (H26~H30)

治山ダムの計画的な整備の推進

【人家等保全対策】

保全対象の人家等が多い未対策箇所のうち、流木・土砂災害発生時の影響が大きい谷出口周辺に人家があるなど優先性の高い箇所から、治山ダムの重点的な整備を推進します。

【5箇年計画量 350箇所】

【流木・土砂流出防止対策】

谷筋にスギ・ヒノキが植林された渓流を対象に、流木災害の発生のおそれが高い箇所から治山ダムの重点的な整備を推進します。

【5箇年計画量 194箇所】

【豪雨災害被害地対策】

甚大な山地災害の被害地において、二次災害防止対策として治山ダム等を整備します。

【5箇年計画量 36箇所】

【合計：5箇年計画量 580箇所】



人家等を守る治山ダムの施工
(上郡町)



人家等を守る治山ダムの施工
(丹波市)



流木・土砂流出防止対策
治山ダムの施工 (多可町)



流木・土砂流出防止対策
治山ダムの施工 (姫路市)



治山ダムによる土砂流出防止
(丹波市)



土砂浚渫による二次災害防止
(丹波市)

【災害の記録】平成26年8月豪雨による山地災害(丹波市)

平成26年8月豪雨では、丹波市市島町を中心に甚大な山地災害が発生しました。丹波市市島町で最大24時間雨量414mm、最大時間雨量91mmの記録的豪雨を観測し、この大雨により700箇所以上（うち人家等に影響のある箇所104箇所）の山腹崩壊が発生しました。



山腹崩壊の状況



災害直後の流木補足状況

森林の多面的機能の維持・向上

山腹崩壊・地すべり防止対策の推進

(山腹崩壊・地すべり防止対策)

脆弱な地質や急峻な地形、活断層の周辺など、降雨や地震による山崩れ等の災害が発生しやすい山地災害危険地区において、斜面の崩壊防止対策や地すべり防止工事を推進します。



アンカーワークによる地すべり対策
(朝来市)



集水井工による地すべり対策
(養父市)

山腹崩壊地の復旧対策状況(丹波市)



災害直後の状況



対策工事中の状況



完成後の状況

自然災害への的確な対応と地域防災力の向上

山地防災にかかる減災対策の推進

(山地防災知識の普及・啓発)

地域の代表や災害時要援護者関連施設の関係者等を対象に、土石流模型実験装置等を活用した山地防災教室等の開催や各種イベントでのパネル展示により、防災意識向上の普及啓発を行っています。



山地防災教室の開催 (三田市)



山地防災講習会の開催 (加古川市)



山地灾害危険地区等の点検
(宍粟市)



地域版防災マップの作成
(宍粟市)

(山地災害危険地区等の点検)

毎年6月を「豊かなむらを災害から守る月間」と定め、地域住民等と合同による山地災害危険地区や治山事業実施箇所のパトロールを行っています。

(住民参加による避難体制等の整備)

地域住民と協働して、集落裏山の危険箇所診断や地域版の防災マップの作成支援を行っています。台風前には、住民が防災マップを用いて危険箇所の点検や避難路の確認等の活動を行っています。

【トピックス】災害記録の伝承



(丹波市)

丹波豪雨の被災地では、記憶の風化防止、地域住民の振り返りの場や、学校での学習の場として、地域で発生した災害の教訓を後世に渡り学び続けられるよう看板を設置しています。

森林の保全

保安林制度及び林地開発許可制度の適切な運用により、無秩序な森林開発を抑制し、適正な開発への誘導を図っています。

保安林制度

森林には、良質な水を育む、山崩れや土石流を防ぐなど多くの働きがあります。そこに暮らす人々のために、そのような大切な働きを特に守っていく森林を保安林に指定しています。

保安林では、立木の伐採や土地の開発などを制限したり、適切な森林整備を確保するなどして、森林の持つ大切な働きが保てるように必要な管理を行っています。

保安林面積(民有林) 172,358ha 県内の民有林面積の32.5%(平成28年3月現在)

保安林の種類と働き

災害を防ぐ

土砂流出防備保安林、土砂崩壊防備保安林、なだれ防止保安林、落石防止保安林

台風や大雨で山が崩れると被害を受けます。森林があれば、被害を少なくでき、落石やなだれを防ぐこともできます。

土砂崩壊防備保安林（神戸市中央区）



水を育む

水源かん養保安林

水は、生物が生きていく上でなくてはならないものですが、森林があることで雨や雪の水を森林が貯えて、少しずつ利用できるのです。森林は「緑のダム」ともいわれています。

水源かん養保安林（南あわじ市）



レクリエーションの場、生活環境や景観の保全

保健保安林、風致保安林

森に行って散策や森林浴を楽しむ人も多くなりました。そこに森があるからこそ、人びとの楽しみも大きくなり、心が癒されるのです。また鎮守の森も大切に守られてきた森林です。

保健保安林（加西市）



その他いろいろな働き

飛砂防備保安林、防風保安林、潮害防備保安林、干害防備保安林、防火保安林、魚つき保安林、航行目標保安林
保安林の所在場所によっては、このようないろいろな働きを持つ森林があります。

魚つき保安林（新温泉町）



林地開発許可制度

保安林以外の森林についても、1ha超の開発行為を行う場合は、森林の持つ働きを確保するための許可制度により、開発行為が適正なものとなるよう開発者に対する指導を行っています。

新名神高速道路の建設（宝塚市）



住宅団地の造成（神戸市須磨区）



森林の多面的機能の維持・向上

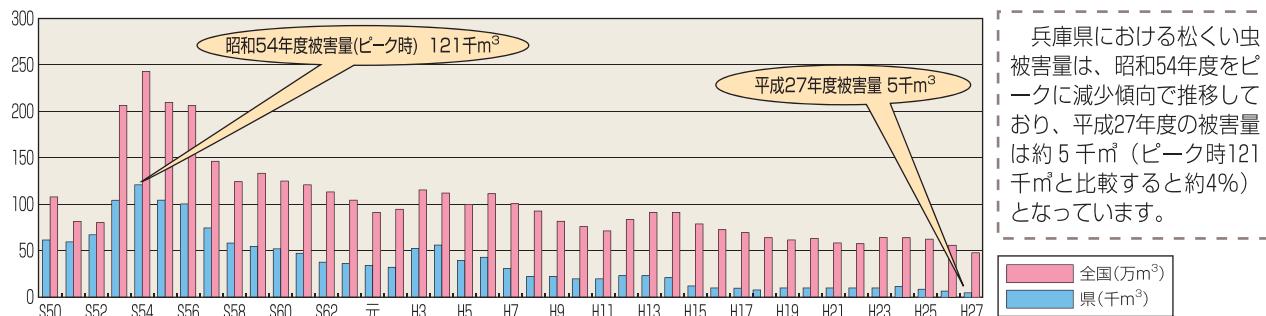
森林病害虫の防除

森林病害虫による森林への甚大な被害を防止するため、防除を行っています。

松くい虫被害対策

松くい虫による被害を防止するため、保安林等の公益的機能の高い松林や松茸山等の地域経済上重要な松林を防除区域、その周辺に位置する松林を周辺区域に指定し、これらの指定区域の中で被害対策を実施しています。

【被害量(単位:m³)の推移】



松くい虫被害対策の取り組み

予防対策

健全な松にあらかじめヘリコプターや動力噴霧機等により薬剤を散布、また、樹幹へ薬剤を注入し被害を予防します。



樹幹注入

駆除対策

被害木を伐倒し、伐倒木に薬剤散布や破碎等を行っており穿入している害虫を駆除し、新たな感染を防止します。



近年は化学薬剤によらない駆除対策として天敵微生物を利用した駆除対策を実施し、環境に配慮した防除も行っています。



その他の対策

周辺松林からの感染から防除区域の松を守るため、防除区域周辺の松林を伐採し、他の樹種に変える樹種転換や、松くい虫被害に対して抵抗性のある松を植栽し、将来的に被害を受けにくい松林整備を行う等の取り組みを行っています。

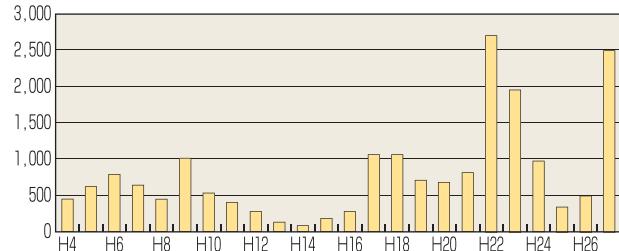


抵抗性松「ひょうご元気松」

ナラ枯れ被害対策

カシノナガキクイムシによるナラ枯れは、平成22年度の激害時には但馬・丹波地域が被害の中心でしたが、東方面からの拡大により近年は阪神地域が被害の中心となっています。被害拡大の防止に向けて、被害先端地の市町や六甲山等の良好な自然・景観を有する森林で重点的な被害対策を実施しています。

【被害量(単位:m³)の推移】



ナラ枯れ被害対策の取り組み

<伐倒駆除(くん蒸)>

被害木を伐倒し、くん蒸処理することで穿入している害虫を駆除し、新たな感染を防止します。



<立木粘着剤塗布>

立木に粘着剤を噴霧することで、樹木に穿入している害虫の脱出抑制と、健全木への穿入を予防し、新たな感染を防止します。



野生動物の管理や被害対策の推進

野生動物の保護管理 (ワイルドライフ・マネジメント)

野生動物の保護管理(ワイルドライフ・マネジメント)

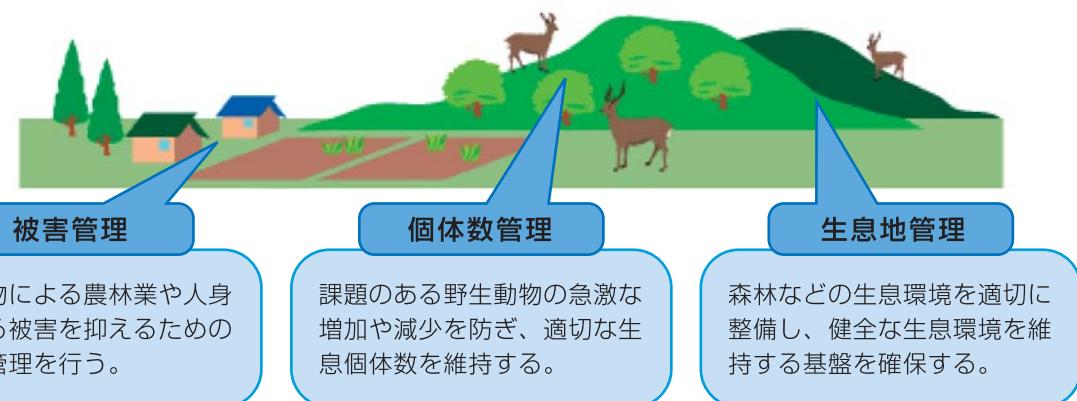
本県は、瀬戸内海から日本海まで変化に富んだ自然環境に恵まれ、多様な動植物が生息する豊かな生態系が形成されています。

その一方、一部の野生動物の生息数の増加により、地域住民が多大な農林業被害や生活環境被害を受けているほか、一部の地域ではシカの採食による森林の下層植生の消失などの生態系被害が発生しています。

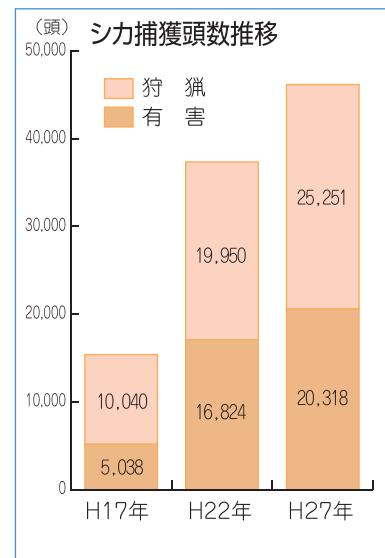
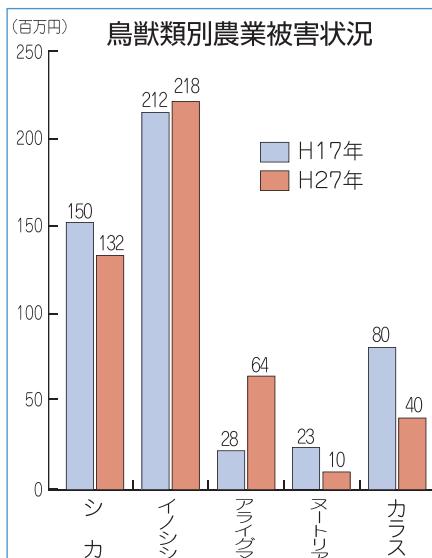
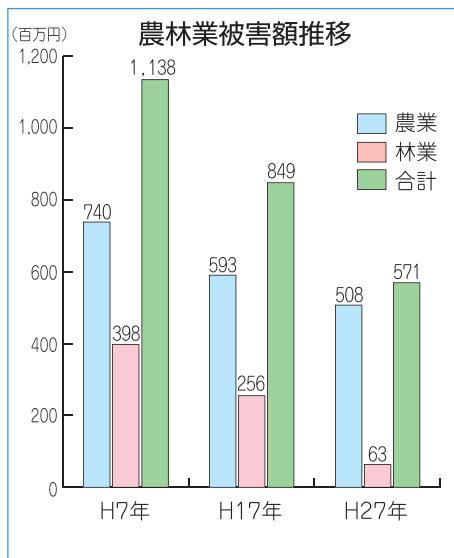
このため、地域の実状に応じた野生動物の個体数管理、被害管理、生息地管理を総合的に進める「ワイルドライフ・マネジメント（野生動物の保護管理）」に取り組むことにより、農林業等への被害軽減を図り、人と野生動物との調和のとれた共存をめざします。

ワイルドライフ・マネジメントとは

科学的な調査研究に基づき、「個体数管理」「被害管理」「生息地管理」を状況に応じて組み合わせ、「人」と「野生動物」と「森林などの自然環境（生息地）」の関係を適切に調整する手法を言います。



【参考】兵庫県における鳥獣による農林業被害状況等



資料：兵庫県農産園芸課、林務課調べ

資料：兵庫県農産園芸課調べ

資料：兵庫県鳥獣対策課調べ

野生動物の管理や被害対策の推進

野生動物の個体数管理・被害管理

●シカ、イノシシ対策

農林業被害や生活環境被害、自然生態系に深刻な被害を与えていたことから、科学的なデータに基づく、個体数推定と捕獲目標を定め、市町が実施する有害鳥獣捕獲や狩猟者による捕獲を促進し、適正な個体数管理を進めます。

被害発生地域では、関係集落が連携した獣害防護柵の設置や防護柵とワナを組み合わせた捕獲など、集落が一丸となった獣害に強い地域づくりを推進します。

●ニホンザル対策

県内には14~15群、約千頭の生息が確認されていますが、群れの規模が小さく、地域的な絶滅が危惧されています。しかし、深刻な農業被害や生活環境被害を発生させているため、追い払い犬の育成、サルが登りにくい防護柵の整備、サル監視員による出没情報の発信など、群れの規模に応じた適正な個体数管理と集落に出没させない対策を推進します。

●ツキノワグマ対策

一時は絶滅も危惧されましたが、平成8年度からの狩猟禁止や学習放獣等の保護対策の結果、当面、絶滅する恐れないレベル（800頭）を上回る生息数に回復しています。しかし、集落への出没件数の増加や出没範囲の拡大など、住民の不安が高まっており、誘引物となる不要果樹の除去や花火等による追い払い、危険な出没個体の有害捕獲など、人とクマの棲み分けを目指した管理を推進します。

●特定外来生物対策(アライグマ、ヌートリア)

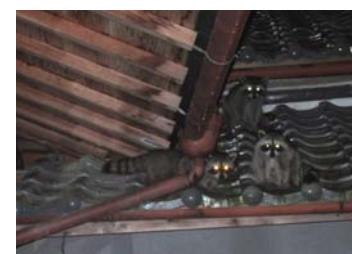
ペットなど国外から持ち込まれたアライグマやヌートリア等の外来動物が野生化し、農業被害や生活環境被害に加え、人的被害も発生しています。県防除指針に基づき策定された市町防除実施計画による捕獲を推進し、地域からの排除を推進します。



河川にすみついたイノシシ(神戸市)



集落に出没したツキノワグマ(香美町)



民家にすみついたアライグマ(丹波市)

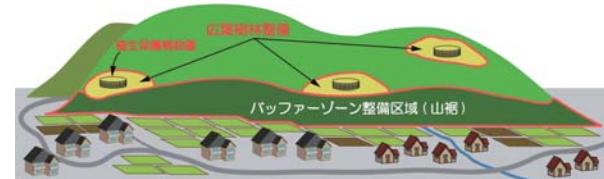
野生動物の生息地管理

●広葉樹林の育成と保護

シカの採食により公益的機能が低下している広葉樹林において、広葉樹の植栽や植生保護柵による下層植生（将来の種子供給源）の保護により、森林の生態系の保全や多面的機能の低下などを防止し、多様な野生動物が生息・生育できる環境づくりを推進します。

●緩衝地帯(バッファーゾーン)の整備

野生動物が集落に出没し、農作物等に被害を与えていた地域において、集落周辺の森林を整備し、野生動物と人とのすみ分けを図る見通しの良い緩衝地帯（バッファーゾーン）づくりを進め、追い払い活動や刈り払いによる潜み場除去などを推進します。



【トピックス】シカ肉等の有効活用

捕獲したシカを地域資源として有効活用を図るため、「ひょうごシカ肉活用ガイドライン」に基づいた衛生的な解体処理方法による食用利用やドッグフード、皮、角など“シカまるごと一頭”的活用を促進します。

また、高タンパク、低カロリー、豊富な鉄分など栄養面で優れたシカ肉の試食会や学校給食やレストランへの食材提供など、ジビエ料理の普及を進めます。



シカ肉を使った学校給食(丹波市)



シカ肉のロースト

森林動物研究センターの調査・研究成果を生かして

科学的で計画的な野生動物保護管理を行うための調査研究拠点施設として、平成19年4月に森林動物研究センターを開設しました。9年間の研究成果は、前ページで紹介したシカ・ツキノワグマ・ニホンザル・イノシシ計画の策定支援をはじめ、次のような取組にも生かされています。

●ストップ・ザ・獣害事業の推進

県内には、集落が管理するシカ・イノシシ用の捕獲わなが3,000基以上設置されていますが、その大半は年間の捕獲数が2頭以下と、効果的に運用できていない実態が明らかになりました。そこで、平成25年度よりシカ・イノシシの捕獲強化を目指して、捕獲実績が上がっていない集落に対する捕獲技術の指導や捕獲体制構築の支援を行ない、捕獲の底上げに取り組みました。

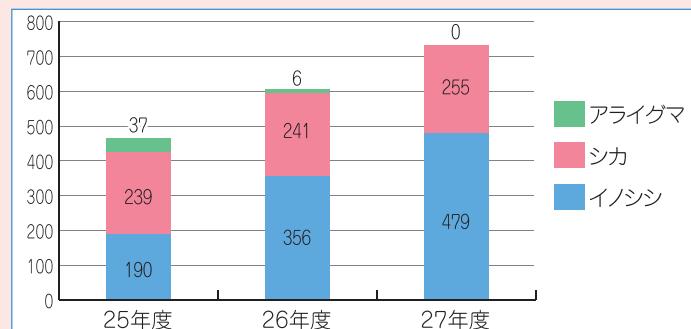
①事前調査・データ収集
(課題や体制の確認、計画策定や事後評価に必要なデータの収集)

②指導プログラムの作成
(方針・目標設定、役割分担の決定、技術マニュアル・指導要領の作成)

③技術講習会の開催
(効果的な捕獲手法を指導)

⑤事業評価
(効果検証、プログラムの改訂)

④現地指導の実践
(対策の実践状況の確認と指導、新規課題の検出と解決策の提案)



捕獲指導による捕獲の成果(指導対象集落における捕獲数)



関係者を集めての現地講習会の様子



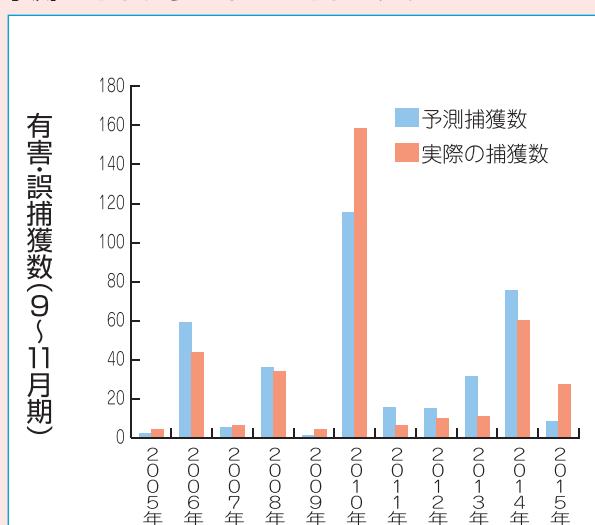
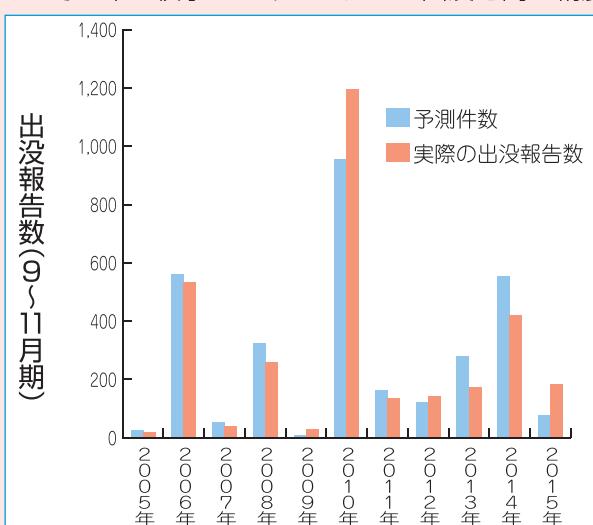
集落で管理するわなの設置状況の確認



初めてのイノシシ捕獲!!

●ドングリ類の豊凶モニタリングに基づいたツキノワグマの秋季出没予測の精度向上

平成17年度より開始したブナ科ドングリ3種（ブナ、コナラ、ミズナラ）の県下全域でのモニタリングは平成27年度で11年目を向かえ、データの蓄積が進んできました。その結果、その年の豊凶モニタリング・データから、その年の秋季のツキノワグマの出没を高い精度で予測できるようになってきました。



(公社)兵庫みどり公社

公社の目的

○森林の整備、緑地保全、人と森林とのふれあい促進、農業基盤整備の強化、地域農業の活性化及び「楽農生活」の実現に関する事業をし、森林の有する多面的機能の保全、環境緑化の創造、自然と人との共生、農林業の振興及び農山村地域の発展を図り、調和ある県土の発展と県民の福祉の向上に寄与することを目的としています。



分収造林事業での木材の搬出



緊急防災林整備事業での
簡易流木止め施設



兵庫県立三木山森林公園



兵庫楽農生活センターでの
親子農業体験教室

(一社)兵庫県林業会議

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18 兵庫県林業会館内
TEL/FAX 078-351-3341

ひょうご木の匠の会 事務局

検索

構成 以下の林業関係11団体が会員です。

兵庫県森林組合連合会、兵庫県木材業協同組合連合会、
(一社)兵庫県治山林道協会、兵庫県林業種苗協同組合、
(公社)兵庫みどり公社、兵庫県水源林造林協議会、
兵庫県林業改良普及協会、兵庫県林業協会、兵庫県公有林野協議会、
(公社)兵庫県緑化推進協会、(公財)兵庫県宮林緑化労働基金



機関誌「兵庫の林業」年4回発行



林業講演会 年1回開催



兵庫県森林整備士養成講習



ひょうご木の匠の会設立総会

事務局 林業会議の他に以下7団体の事務局です。
兵庫県水源林造林協議会、兵庫県林業改良普及協会、
兵庫県林業協会、兵庫県公有林野協議会、
ひょうご木の匠の会、近畿北陸水源林造林協議会、
兵庫県林友会

(公財)兵庫県営林緑化労働基金 (林業労働力確保支援センター)

〒650-0013 神戸市中央区花隈町12番6号 第三大知ビル2階
TEL 078-361-8010 FAX 078-381-9116

兵庫県営林緑化労働基金

検索 

主な業務内容

[林業に就業しようとする方に]

- 電話・来所・合同相談会における就業相談や高校生への林業の職場PRなど
新規就業希望者の林業への就職活動を応援します。
- チェーンソー作業や現場見学など体験型の入門研修を実施します。
- 就業までの準備や研修受講に必要な資金を無利子でお貸しします。



就業希望者相談会

[林業に就業された方に]

- 掛けをお預かりしておき、将来退職した時に退職金をお支払いします。
- 振動工具の使用過多による振動障害病予防のため巡回健康診断を実施します。
- 技能・技術のスキルアップのため専門的かつ高度な研修を実施します。

[従業員の育成に熱心な事業者に]

- 労働者を安定して雇用するため、雇用管理・事業合理化計画に基づく円滑な事業運営を支援します。
- 経営者や管理職員を対象に雇用改善・機械化推進・経営合理化等をテーマとした研修会を開催します。
- 従業員の資格取得や研修受講に要した経費および従業員が居住する住宅の賃借料の一部を助成します。



チェーンソー作業体験



振動障害病の巡回健診



現場技能者育成研修(林業架線研修)

兵庫県林業種苗協同組合

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18 兵庫県林業会館内
TEL/FAX 078-351-0734

主な業務内容

当組合は、山林に植えるスギやヒノキ、マツなどの苗木を兵庫県内の品種系統の明らかな種子から生産している団体です。また、コナラ、クヌギ、ケヤキ、ヤマザクラなどの郷土広葉樹の苗木も生産・販売しています。

大木も一本の苗木から



苗木生産の内容

苗木づくりは、春、畑に種をまき、翌年の春に間隔をあけて幼苗を植付け、1~2年で掘り取り山行苗木「裸苗」として出荷しています。また、幼苗を容器で育てる「コンテナ苗」の生産も行っています。

さらに花粉症対策として、花粉の付きにくい「少花粉スギ」の生産にも取組んでおり、近い将来「少花粉ヒノキ」の生産にも取組みます。



畠で育てる裸苗



容器で育てるコンテナ苗



笠形神社の大スギ
(神崎郡市川町)
樹高 約50m
目通り幹周り 9.5m
推定樹令300年以上

兵庫県木材業協同組合連合会

主な業務内容

- 会員相互間の連絡・組合活動の調整
- 経営技術の改善・知識の普及
- 事務代行・情報の提供
　　公共建築工事・土木工事に使用する
　　県産木材証明書の発行



ひょうご木材フェア



ひょうご木づかい王国学校



木育キャラバン実施状況

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18 兵庫県林業会館内
TEL 078-371-0607 FAX 078-371-7662

兵庫県木材業協同組合連合会

検索

- 団体契約の締結・JAS検査事業の実施

- 国・県委託・補助事業の実施
　　県産木材使用住宅証明の発行
　　ひょうご木づかい王国学校の運営
- 普及イベントの実施
　　木育キャラバンの実施

兵庫県森林組合連合会

主な業務内容

- 会員（県下の森林組合）の指導
- 兵庫県産木材の利用拡大及び販売
- 森林の調査・測量及び森林の整備
- 病虫害の防除
- 環境省が運営するオフセット・クレジット（J-VER）制度、
　　Jクレジット制度を活用した森林カーボンオフセット事業

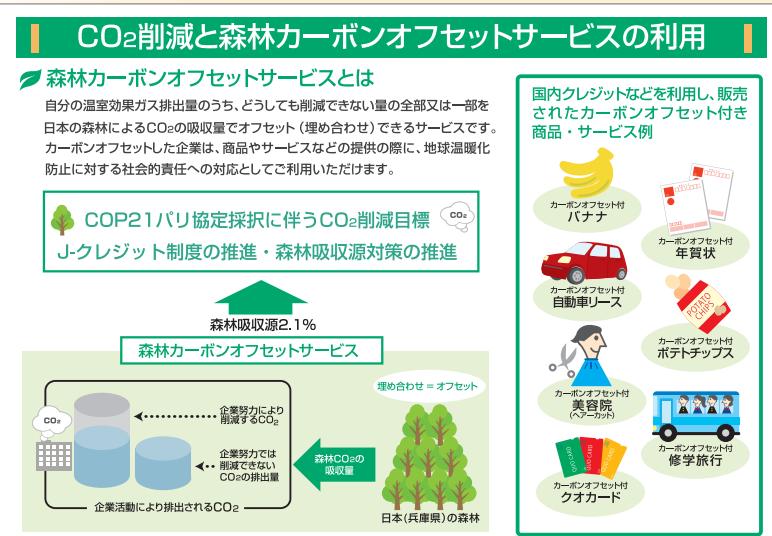
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18 兵庫県林業会館内
TEL 078-341-5082 FAX 078-341-6936

兵庫県森林組合連合会

検索



バイオマスエネルギー材供給センター
(隣接する朝来バイオマス発電所に
燃料チップを全量供給)



兵庫県産間伐材を使用した
ソーラーパネルECO架台

(公社)兵庫県緑化推進協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18 兵庫県林業会館内
TEL 078-341-4070 FAX 078-341-4071

兵庫県緑化推進協会

検索 

主な業務内容

○緑の募金活動

かけがえのない森や緑を守り育していくため、公益社団法人兵庫県緑化推進協会では、県や市町と連携し、広く県民のみなさんに「緑の募金」のご協力を呼びかけています。

○森と緑とのふれあい支援事業の実施

ご協力いただいた「緑の募金」は、森林ボランティア活動や子どもたちの森林環境教育などに活用しています。

○企業の森づくり（森づくりコミュニケーション事業）の支援

企業の皆さまが、森林所有者に代わって森林を整備・保全する活動を支援しています。

○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

地域住民等が行う里山林保全や竹林整備等の取り組みを支援しています。



(一社)兵庫県治山林道協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18 兵庫県林業会館内
TEL 078-371-0210 FAX 078-371-6632

兵庫県治山林道協会

検索 

主な業務内容

○地域住民や小中学生等を対象に、防災意識の向上を図るための普及啓発活動

○林道自然観察ウォーキング等の実施

○「やまなみ」の発行及び山地防災の冊子・ビデオ等の作成

○治山・林道工事コンクール等の実施

○治山事業に係る現場等技術業務・設計積算業務等の受託、堤名板等の資材・治山林道必携等の図書の斡旋



実験装置を活用した普及活動（六甲山の災害展）
(左から 3D立体映像装置・土石流実験装置・降雨体験装置)



林道自然観察ウォーキングの集合写真



発行冊子及びビデオ



工事コンクールの表彰式



現場技術業務の実施状況



ひよごの森林・林業

平成29年3月発行

●監修●

兵庫県農政環境部農林水産局・環境創造局
(林務課・治山課・鳥獣対策課・豊かな森づくり課)
TEL.078-341-7711㈹

●発行●

一般社団法人 兵庫県治山林道協会
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18 兵庫県林業会館内
TEL.078-371-0210 FAX.078-371-6632